

地域の会第177回定例会 資料

平成30年3月7日
原子力規制委員会
原子力規制庁

資料1：前回定例会（2月7日）以降の原子力規制庁の動き

資料2：委員ご質問への回答

前回定例会（2月7日）以降の原子力規制庁の動き

平成30年3月7日

柏崎刈羽原子力規制事務所

【原子力規制委員会】

2月14日 第66回定例会

- ・平成29年度第3四半期の保安検査の実施状況について

【柏崎刈羽原子力発電所 6・7号炉 審査状況】

2月13日 ・新規制基準適合性審査の進め方に係る意見交換（170）

（格納容器圧力逃がし装置に関する地盤の液化化による基礎部分の設計方針について）

【規制法令及び通達に係る文書】

2月21日 ・柏崎刈羽原子力発電所の溶接安全管理審査申請書を受理

【被規制者との面談】

2月21日 ・中央制御室換気空調系ダクト等の点検調査に関する東京電力ホールディングス（株）の対応について

（柏崎刈羽原子力発電所3号機の外気取り入れダクトの一部において腐食が確認された件）

【柏崎刈羽原子力規制事務所】

2月13日 ・平成29年度第4四半期保安検査実施

～3月 1日

<検査項目>

- ・組織の力量管理の実施状況

発電所の保安活動を行う要員に対して必要な力量が明確にされ評価改善されているか確認した。

- ・内部監査の実施状況

柏崎刈羽原子力発電所に対する内部監査について、平成29年度の計画が適切に策定され、実施されているか確認した。

- ・所員への保安教育の実施状況

所員への保安教育について、平成29年度の計画が適切に策定されこの計画に従い実施されているか確認した。

- ・緊急作業従事者の管理状況（抜き打ち検査）

緊急作業従事者の選定状況及び緊急作業に従事する旨の意思の撤

回、人事異動等による緊急作業従事者の変更管理について、適切に行われているかを確認した。

- ・ 不適切なケーブル敷設等の不備に係る改善措置等の実施状況（追加検査）

保安規定違反（違反2）に判定された「柏崎刈羽原子力発電所における不適切なケーブル敷設等の不備」について、要因分析に基づく再発防止対策が適切に策定、実施され、評価改善されているか及び現場の是正状況について確認した。

- 3月 2日 ・ 事業者防災訓練（緊急時演習）参加

事業者防災訓練に合わせて、事務所検査官から規制庁緊急時対応センター（ERC）へ事業者の対応状況を情報共有するなど緊急時対応活動訓練を実施した。また、可搬型モニタリングポストの設置等、事業者の現場活動にも立会った。

【放射線モニタリング情報】

原子力規制委員会は、放射線モニタリング情報を「原子力規制委員会ホームページ」（<http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/new/list-1.html>）にて発表している。

直近の主な更新情報は下記のとおり。

- ① 各都道府県のモニタリングポスト近傍の地上1m高さの空間線量

<平成30年3月6日版>（平成30年3月4日測定分）

http://radioactivity.nsr.go.jp/en/contents/13000/12654/24/192_20180304_20180306.pdf

- ② 福島第一原子力発電所近傍海域の海水の放射性物質濃度

<平成30年3月6日版>（試料採取日：平成30年2月26日、3月3、4日）

http://radioactivity.nsr.go.jp/en/contents/13000/12655/24/278_1_20180306.pdf

以 上

地域の会のご質問について（回答）

質問 1：東北電力・女川原発、東海第二原発も 2011. 03. 11 の東北地方太平洋沖地震にかなりの揺れに遭っています。それぞれの原発敷地は液状化したのでしょうか。液状化したのならその位置と液状化の状況を教えてください。また本震と震度 3 以上の余震について、震度と各原子炉建屋床面の最大加速度を教えてください。

質問 2：柏崎刈羽原発は砂丘地に立地していることが特徴だと思います。似た原発と言えば中部電力・浜岡原発も砂丘地に立地しています。2009. 8. 11 に駿河湾地震（M6. 5）が発生し、浜岡原発の 5 号が 1～4 号に比較して大きく揺れたと報道されました。駿河湾地震で浜岡原発の敷地は液状化したのでしょうか。液状化したのならどのような場所で液状化の状況はどうだったのか。柏崎刈羽原発のように耐震強化をした設備があったのか教えてください。また本震と震度 3 以上の余震について、震度と各原子炉建屋床面の最大加速度を示してください。

	質問 1 の回答		質問 2 の回答
	東海第二	女川	浜岡
液状化の有無	<ul style="list-style-type: none"> 取水構造物周りが比較的大きく沈下。液状化の痕跡は認められなかったが、津波による消失の可能性も踏まえ液状化したとの判断。*1 事業者は新たに設置する防潮堤は、地盤の液状化の可能性も踏まえた構造成立性を確保する方針を示している。(現在審査継続中) 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の複数箇所では地盤沈下が確認されており、その要因が液状化なのかどうかについては、現在、確認中。(現在審査継続中) 	<ul style="list-style-type: none"> 駿河湾沖地震において、1号機取水槽まわり等で局所的に軽微な地盤沈下が確認されているが、その要因が液状化なのかどうかについては、不明。 審査において地盤の液状化について考慮する方針であることが示されている。(現在審査継続中) <p>*2</p>
震度 3 以上の余震	不明	不明	不明
原子炉建屋床面の最大加速度	<p>220 cm/s²</p> <p>(原子炉建屋基礎版上：E-W 方向)</p> <p>*3</p>	<p>1号機：587 cm/s²以上</p> <p>(原子炉建屋基礎版上：E-W 方向)</p> <p>2号機：607 cm/s²</p> <p>(原子炉建屋基礎版上：N-S 方向)</p> <p>3号機：573 cm/s²</p> <p>(原子炉建屋基礎版上：N-S 方向)</p> <p>*3</p>	<p>3号機：153 cm/s²</p> <p>(原子炉建屋基礎版上：E-W 方向)</p> <p>4号機：178 cm/s²</p> <p>(原子炉建屋基礎版上：E-W 方向)</p> <p>5号機：439cm/s²</p> <p>(原子炉建屋基礎版上：E-W 方向)</p> <p>*4</p>
耐震強化			<p>駿河湾沖地震での耐震上重要な設備への影響はない。</p> <p>*5</p>

- * 1 第 418 回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合資料「資料 1-1-2 東海第二発電所東北地方太平洋沖地震における地盤の被災状況について」(<https://www.nsr.go.jp/data/000194398.pdf>)
- * 2 第 415 回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合資料「資料 2-3 浜岡原子力発電所 4 号炉 耐震設計の論点に係る整理表」(<http://www.nsr.go.jp/data/000170444.pdf>)
- * 3 「平成 23 年東北地方太平洋沖地震の知見を考慮した原子力発電所の地震・津波の評価について～中間取りまとめ～図表集」(<http://dl.ndl.go.jp/view/prepDownload?itemId=info%3Andljp%2Fpid%2F6016863&contentNo=3>) P39,103
- * 4 「浜岡原子力発電所における地震観測データの分析結果の報告受領並びに 5 号機の地震応答解析による健全性評価及び点検・評価について」(<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1165034/www.nisa.meti.go.jp/oshirase/2009/210821-1.html>)
- * 5 第 252 回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合資料「資料 2-2 浜岡原子力発電所 4 号炉 可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」(<http://www.nsr.go.jp/data/000115796.pdf>)